

編集後記

本号は、科学研究費補助金（基盤研究（B））「北欧における職業教育・訓練の改革に関する総合的研究——新しい「徒弟訓練」を中心に——」（代表 横山悦生）の中間報告書（その4）として発行させていただいた。

冒頭の新井論文は、2回にわたり、フィンランドの職業教育・訓練制度や職業資格制度について、調査を行い、その運用の実際を解明したものである。2番目のノルウェーの職業教育・訓練に関するトールゲイル氏とアンナ氏との共著論文は、2015年5月に大東文化大学において開催された国際セミナーにおけるトールゲイル報告をもとに論文にいただいたものである。この二人の研究者とは、2013年5月にストックホルムにおいて開催された職業教育に関する国際会議で知り合って以降、同年9月に彼らが所属する「労働生活と福祉社会研究所」（Fafö）を訪問するなど、研究交流を重ねてきた。3番目のリーブ氏と4番目のリチャード氏の論文は、2016年7月2日、3日に名古屋大学教育学部において開催した国際会議（北欧と日本の職業教育・訓練の比較に関する公開研究会）での報告をもとに論文にいただいたものである。リーブ氏は現在77歳である。専門は社会学であるが、Vocational Pedagogyの研究に長年取り組んでこられた。大学院生時代にオスロの工場現場に徒弟として入り、現場での参与観察をもとに博士論文を書き上げた、行動する社会学者である。彼女の博士論文は、私の研究室のメンバーで仮訳を作成した。まだ、公開できるものになっていないが、近い将来公開できればと考えている。彼女は、77歳の現在も国際的に活躍する名誉教授である。2016年10月29日30日にギリシャのアテネで開催された名誉教授の国際会議でMentoring our knowledge for the futureというテーマで報告された。高齢になっても生涯現役であり、そのエネルギーには驚かされる。5番目の田淵氏による、トールゲイル氏とアンナ氏の著書の翻訳（苦悩する職業教育(下)）は、13号で掲載した翻訳の続きである。次号にこれらの2回にわたる翻訳についての解説を田淵氏に執筆していただく予定である。以上の5本の論考が、科研費中間報告書（その4）の内容である。本研究プロジェクトは、今年度までの4年間のプロジェクトである。このプロジェクトの研究課題は、

当初想定していたものをはるかに超える課題であることが調査の進展とともにわかってきた。福祉国家としては同じような特徴をもつ北欧4ヶ国が、職業教育・訓練制度についてはかなり大きく異なることが判明してきた。これらの点は、これまでの中間報告書に掲載してきた論考で一定明らかにしてきたが、それらは全体の一部にすぎない。残された課題は、来年度以降も新たな科研費を獲得して継続していければと考えている。

7番目のAndrei Keller氏による英語の論文は、昨年10月に発行した13号に掲載した同氏のロシア語の論文の英語版である。室報に掲載するロシア語の論文は、その英訳を同時に掲載することを追求してきたが、この論文についてはようやくここに掲載することができた。

（横山 悦生）